

大阪大谷大学

令和六年度 入学試験問題（一般・後期）

国 語

注意事項

- 一 問題用紙は、全部で十一ページです。解答用紙は一枚です。
- 二 解答用紙の所定欄に受験番号と氏名を記入してください。
- 三 解答はすべて解答用紙の所定欄に記入してください。
- 四 問題用紙は持ち帰ってください。

□ 次の文章を読んで、後の問に答えよ（設問の都合上、原文の一部を改変している。また、設問に字数制限がある場合、句読点・符号等はすべて字数に含む）。

人間のことを考えるのには、いろいろな原理がある。ひとつの原理によって説明することは、単純でわかりやすいが、それはとである。すでに述べたように、生と死、健康と病氣、仕事と遊び、などの対極的な見方の、どちらか一方に片寄せず、ものごとを見てゆくことは、教育にとっても大切である。

A 実状に合わなくなるのではなからうか。一党ドクサイが危険であることは、最近の世界の情勢がよく知らせてくれたことにもうひとつ特に取りあげたいのは、私が父性原理、母性原理と呼んでいる、対立するものの考え方である。この呼び名はわが国では、ときに誤解されるのだが、欧米の人たちに言うときによく通じるようだ。それは、ここに言う父性原理は、後でも言うように西洋に発達してきたものなので、そもそも日本人にはわかりにくいのである。これらの原理はどちらが正しいとか誤りである、というのではなく、まさに一長一短であると私は考えている。

高等学校で、ある生徒が校則を破る。その程度がひどいときは、処罰が職員会議で論じられる。片方は、悪をはたらいた限り処罰は教育的に考えても当然という。他方は、そのような悪い生徒だからこそ、教師がかばってやるべきで処罰などせずに、皆で包みこんでやるのこそ教育的だという意見が出される。

前者は善と悪とを明確に区別してゆく原理に立っているのに対して、後者は善悪の区別よりも、全員が包まれて一体となってゆくことを原理としている。私はそのどちらが正しいなどとは、簡単には言えないと思っている。

父性原理、母性原理と私が呼んでいるものは、端的に言う②と、父性は「切る」、母性は「包む」機能を主としている。父性は善と悪、できる者とできない者、固いものと柔かいもの、何でも明確に区別してゆく。それに対して、母性はすべてを全体として包みこんでゆく。この原理のどちらが正しいというのではないが、片方の原理が正しいと思うと相手を攻撃しなくなってくる。

先ほどの例であれば、処罰派は片方の教師を「甘い」とか、姿勢があいまいだと言って攻撃するし、それとは逆の立場に立つと、相手を冷たいとか排他的だなどと責めることになる。時には、相手を教育的ではないとか熱意に欠けるなどと言ったりするが、実際はそんなことではなく、考え方の基礎が異なるのである。B 原理が異なるとわかれば、妥協の道などが見出されようが、相手を非教育的とか、考えがまちがっていると決めつけると、対話が成立しないのである。このような議論の混乱が、教育のことを論じる際に多いように思う。

割り切つて言えば、日本は欧米に比して母性原理が強い国であったが、国際交流が活発で、かつ欧米の文化を輸入している間に、父性原理の方も大分輸入しつつある。I、頭で考えるときは父性原理に近いのだが、実際行動や感情的な面では、まだまだ母性原理によって生きている、というところである。

父性原理は、「切る」ことによる分割の最小単位のひとつとして、人間の「個」ということを重視する。個を確立し、その成長を願うことが目標となる。これに対して、母性原理ではすべてが包まれたひとつの「場」——これは、きわめてあいまいであるが——の平衡状態をイジ^bすることが大切である。このため、個人が自己主張を強くしたりせず、全体のバランスを常に考えていなくてはならない。これは「全体主義」とまちがわれることがあるが、それとは異なる。個人が全体に奉仕するなどというのはなく、場の方がまず個よりも先行しているのである。

父性原理では個人差つまり能力差を認めるので、競争ということが大切だ。しかし、母性原理では絶対的と言っていいほどの平等感がある。II 次が大切な点なのだが、全体が平等であることを前提として、そこに何らかの組織をつくらうとすると、一様に順番をつけるより仕方なくなる。これは能力に関係なく、昔は「長幼序あり」という考えによっていた。

III、ここに現代の日本のように、父性原理による能力差の考えが混入してくると、すでに論じたような、途方もない一様序列が、成績によってつけられることになってしまう。

二つの原理は簡単には両立しない。そしてこのような考えの差によって、教育のなかでどれほど多くの「論戦」が生じている

かがよくわかるであろう。

1から5までの評価をつけるのは駄目だ、全員3にしると主張する人は、強い母性原理によって入試によってよい学生を選別し、キタ^cえあげないと、国際競争に負けてしまうと強調する人は、父性原理によっている。IV どちらも一理はある。しかし、競争原理と母性原理による一様序列の考えとが、知らぬ間に結合し、それが小学校まで及んでくると、すでに論じたように弊害はC ものになってくる。

西洋化していると言っても、日本はまだ基本的な母性原理で動いている。そのよい方を述べると、全体としての一体感のようなものに支えられ、欧米人の味わうような凄まじい孤独感を体験することが少ないことや、能力が低くても全体によって支えられている傾向があるので、犯罪や非行が欧米先進国に比して、きわめて低いということであろう。家庭内暴力などと言っても、日本とアメリカではその烈^{はげ}しさが全然異なっている。

母性原理が強いなかで、西洋流の個の確立を意図する者は、大変な困難に会う。あるいは、創造的な活動をしようとする人にとつても、「足を引っぱる」人が多いために苦勞^{くろう}しなくてはならない。V、人々と異なることをするのが極端に難しいのである。このようなことは、母性原理の短所^③と言っているであろう。創造性の高い人が「海外流出」したりするのもこのためである。

これ以上あげることほしないが、父性原理と母性原理はX であつて、ユウ^dレツを論じることほできない。ここにこの問題の難しさがある。

論を先にすすめる前に、父性原理^④についてももう少しつけ加えたい。この点について誤解する人が多いからである。わが国において、父性が弱いという認識がだんだんとできてきたのはいいが、「父性復権」などと唱える人がでてきて、軍国主義時代の父親をさも強い父性をそなえた人物であるかのように誤解して、それを押しすすめようとする。これはここに述べた父性原理をまったく誤解している。

子どもの言うなりになって、子どもが勝手な行動をし非行を重ねるのに、何も対応のできない父親が、実は戦争中に金鶏勲章などというのをもらっている「勇者」だったという例があった。この男性は「号令」が上から下される限り命をかけて突撃する強さをもっているが、息子と一対一で対決し、自分の個人の意見を言うという強さは全然もっていない。私が強調したい父性原理というのは、後者のような点を指している。

何事につけ、自分の意見を持ち、それを明確に表明する強さと、皆がする限り命も棄てるという強さは異なるものである。後者のような行動は母性原理の体現者としての強さであり、父性原理的にはきわめて弱い行為と言わねばならない。

このことがわかっていないと、父性復権のつもりで、生徒に細かい校則を押しつけ、そのためには暴力をも使用する、などということになる。日本には父性原理の復活などということはない。それはもともとなかったものなのだから、もしそれを必要と感じるならば、父性の新たな獲得として意識されねばならないのである。原理の弱さをワンリョクでカバーするのは、まったく馬鹿げたことである。

(河合隼雄『子どもと学校』による)

問一 二重傍線部 a s e のカタカナを漢字に直せ。

問二 空欄 I V に入る最も適当な語句を、次のア～オの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えよ（同じ記号は二度使えない）。

ア しかし イ ところが ウ たしかに エ そして オ ともかく

問三 空欄 A C に入る最も適当な語句を、次のア～エの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。

A	ア あろうことか	イ さしあたって	ウ えもいわれず	エ ともすると
B	ア 止めおかぬ	イ たちもとおる	ウ よって立つ	エ 冷めやらぬ
C	ア 耳になすむ	イ 目にあまる	ウ 鼻じるむ	エ 口おしい

問四 傍線部①「父性原理、母性原理」とあるが、それぞれ、どのような原理か。具体例を踏まえて説明された箇所を、本文中から抜き出し、解答欄に合う形で、それぞれ十五字以内で答えよ。

問五 傍線部②「父性は『切る』、母性は『包む』機能を主としている」とある。これは、「〈父性原理〉切る／〈母性原理〉包む」のように、整理することができる。このような「〈父性原理〉／〈母性原理〉」の組み合わせとして、本文の内容に合致しないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 〈父性原理〉機能的序列 ／ 〈母性原理〉一様序列性
- イ 〈父性原理〉個人差の肯定 ／ 〈母性原理〉絶対的平等感
- ウ 〈父性原理〉調整役 ／ 〈母性原理〉指導者
- エ 〈父性原理〉再生による変化 ／ 〈母性原理〉進歩による変化

問六 傍線部③「母性原理の短所」とあるが、これに対して、日本における母性原理の長所について、筆者はどのように論じているか。本文中の語句を用いて、四十五字以内で答えよ。

問七 空欄

X

 に入る最も適当な語句を、本文中から抜き出し、四文字で答えよ。

問八 傍線部④「父性原理」について、本文中の著者の主張に合致するものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 命がけで突撃する強さをもちつつも、個人の意見を控えることが、日本における父性原理の特徴である。
- イ 父性原理は日本で発達してきたものではないので、父性の復権という考え方は、そもそも成り立たない。
- ウ 自分の意見を持ち、明確に表明するのは母性原理の強さで、命がけで任務に当たる父性原理とは異なる。
- エ 日本人は父性が弱いという認識は誤りではないため、欧米諸国から積極的に父性原理を学ぶ必要がある。

□ 次の文章を読んで、後の問に答えよ（設問に字数制限がある場合、句読点・符号等はすべて字数に含まむ）。

歌の八つの病の中に後悔の病といふ病あり。歌を速やかに詠み出だして人にも語り、書いても出だして、後に、よき詞、節を思ひよりて、かく言はでなど思ひて悔い妬がるをいふなり。さればなほ、歌を詠まむには急ぐまじきが良きなり。いまだ昔より、疾く詠めるに賢きことなし。されば、貫之などは歌一つを、十日二十日などにこそ詠みけれ。しかはあれど、折に従ひ、事にぞよるべき。

道信の中将の山吹の花を持ちて、上の御局といへる所を過ぎけるに、女房たち数多のこぼれて、「さるめでたき物を持ちて、ただに過ぐるやうやある」と言ひかけたりければ、もとよりやまうけたりけむ、

くちなしにちしほやちしほ染めてけり

と言ひて差し入れたりければ、若き人々、え取らざりければ、奥に伊勢大輔が候ひけるを、「あれ取れ」と宮の仰せられければ、承りて一間が程をみざり出でけるに、思ひよりて、

こはえもいはぬ花の色かな

と **A** 付けたりけれ。これを上聞こし召して、「大輔なからましかば、恥がましかりけることかな」とぞ仰せられける。

これを思へば、心疾きも賢きことなり。心疾く歌を詠める人は、中々に久しく思へば悪しう詠まるるなり。心遅く詠み出だす人は、速やかに詠まむとするも叶はず。ただ、もとの心ばへに従ひて詠み出だすべきなり。

（源俊頼『俊頼髓脳』による）

問一 傍線部③⑤の漢字の読み方を、現代仮名遣いのひらがなで答えよ。

問二 傍線部①④の動詞の活用之行・種類・活用形を、次の例のように答えよ。

例 カ行変格活用終止形

問三 傍線部⑧⑨⑩の助動詞の文法的意味を、次のア～ケの中から選び、それぞれ記号で答えよ（同じ記号は二度使えない）。

ア 過去 イ 詠嘆 ウ 受身 エ 尊敬 オ 自発
カ 可能 キ 過去推量 ク 現在推量 ケ 反実仮想

問四 空欄 A に入る最も適当な語を答えよ。

問五 傍線部⑦のことばの意味として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 利益 イ 設備 ウ 予想 エ 準備

問六 傍線部②「しかはあれど、折に従ひ、事にぞよるべき」とあるが、その内容を説明したものととして最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 一首の歌を時間を掛けて詠む人もいるけれども、やはりすばやく詠むべきだ。
- イ 後悔しないように時間を掛けて歌を詠むべきだが、個別の事情も尊重すべきだ。
- ウ 一首の和歌をすばやく詠むのはすばらしいことだが、後悔のもとにもなるはずだ。
- エ 後悔することがあっても、うまく歌を詠むために折々自身の詠歌を振り返るべきだ。

問七 傍線部⑥「さるめでたき物を持ちて、ただに過ぐるやうやある」とあるが、「さる」の指示内容を明示して、現代語訳せよ。

問八 傍線部⑩「こはえもいはぬ花の色かな」が優れている理由を説明したものととして、最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 道信が「くちなし」といったのに対し「えもいはぬ」と応じているから。
- イ 道信の持っていた山吹の花の色を、これ以上ないと褒め讃えているから。
- ウ 道信の山吹の筆舌尽くしがたいすばらしさを、和歌で表現しているから。
- エ 山吹の花の美しさを褒めることを通して道信の容姿も賞讃しているから。

問九 傍線部②「大輔なからましかば、恥がましかりけることかな」とあるが、「恥がましかりけること」になる理由を明示して、現代語訳せよ。

問十 本文の内容に合致するものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 一首の和歌に時間を掛けるか、すばやく詠むのかは歌人の資質によっており、身の程に合わせて詠むべきだ。
- イ 和歌の返事をする人が決まらない場合は、奥にいる控えめな人を指名すると予想外の活躍をすることがある。
- ウ 女性から声を掛けてもらうためには、山吹の花など趣ある物を持って女性の局の前を通りかかる必要がある。
- エ 歌が上手ではない人は、慌てて歌を詠んだとしても、後からもっとよい歌句を思いつき後悔する場面が多い。

問十一 源俊頼が編集した勅撰和歌集として正しいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 『万葉集』
- イ 『古今和歌集』
- ウ 『金葉和歌集』
- エ 『新古今和歌集』